

平成 27 年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第 1 年次）（概要）

1 研究開発課題	<p>超高齢社会を迎えて新たな価値を創造できるバリュークリエイターの育成 ～2025 (H37) 年を支える地域福祉におけるリーダー的存在へ～</p>				
2 研究の概要	<p>本研究では、我が国における超高齢社会に対応するために、多様で質の高い介護福祉サービスを提供できる専門職の育成とともに、福祉課題に取り組み、地域コミュニティの構築に向けた新たな価値を創造できる人材の育成に向けて、次の 2 つの視点から研究活動を行う。</p> <p>I 2025 (H37) 年の日本社会を支える介護福祉士としての専門性の強化</p> <p>介護を必要とする様々な利用者に対し、基本的かつより専門的な介護を提供できる能力を育成するための教育内容・指導方法の開発を研究の重点項目とする。</p> <p>II 地域社会と繋がりをもつ福祉実践教育～地域福祉の課題に向けた専門分野との共創～</p> <p>介護福祉士に関する知識・技術を活かした課題対応能力をはじめ、他の専門分野との協働に向けた教育内容や指導方法の開発を行う。更に介護福祉士の専門的な立場から地域福祉問題に主体的に取り組み、新たな価値を創造するための教育内容や指導方法の開発を研究の重点項目とする。</p>				
3 平成 27 年度実施規模	<p>福祉ボランティア科を対象として実施した。</p>				
4 研究内容	<p>○研究計画（指定期間満了まで。5 年指定校は 5 年次まで記載。）</p> <table border="1" data-bbox="183 1153 1391 2042"> <tr> <td data-bbox="183 1153 359 1713">第 1 年次</td> <td data-bbox="359 1153 1391 1713"> <p>【研究の重点項目】 介護を必要とする様々な利用者に対し、基本的かつより専門性の高い介護を提供できる能力を育成するための教育内容・指導方法の開発</p> <p>介護を必要とする様々な利用者の尊厳を支えることができる人材を育成するために、大学や専門機関と連携し、介護福祉士の専門性を高める系統的な教育内容や指導方法の研究を行う。</p> <p>(1) 普通教室等で ICT を活用した介護技術・知識の向上をめざすとともに、効果的な指導方法を研究する。</p> <p>(2) 認知症高齢者に対する尊敬と共感を持ったコミュニケーション技術について指導方法を研究する。</p> <p>(3) 福祉用具を活用した利用者の自立支援に向けた介護技術について指導方法を研究する。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="183 1713 359 2042">第 2 年次</td> <td data-bbox="359 1713 1391 2042"> <p>【研究の重点項目】 介護福祉士に関する知識や技術を活かした課題対応能力を育むアクティブ・ラーニング型授業の研究ならびに、他の専門分野と協働するための教育内容や指導方法の開発</p> <p>生徒が学習した介護福祉士の専門性を活かし、超高齢社会を迎えた日本社会における課題について主体的に考え、他の専門分野と協働する視点を育むための教育内容や指導方法の開発を行う。</p> </td> </tr> </table>	第 1 年次	<p>【研究の重点項目】 介護を必要とする様々な利用者に対し、基本的かつより専門性の高い介護を提供できる能力を育成するための教育内容・指導方法の開発</p> <p>介護を必要とする様々な利用者の尊厳を支えることができる人材を育成するために、大学や専門機関と連携し、介護福祉士の専門性を高める系統的な教育内容や指導方法の研究を行う。</p> <p>(1) 普通教室等で ICT を活用した介護技術・知識の向上をめざすとともに、効果的な指導方法を研究する。</p> <p>(2) 認知症高齢者に対する尊敬と共感を持ったコミュニケーション技術について指導方法を研究する。</p> <p>(3) 福祉用具を活用した利用者の自立支援に向けた介護技術について指導方法を研究する。</p>	第 2 年次	<p>【研究の重点項目】 介護福祉士に関する知識や技術を活かした課題対応能力を育むアクティブ・ラーニング型授業の研究ならびに、他の専門分野と協働するための教育内容や指導方法の開発</p> <p>生徒が学習した介護福祉士の専門性を活かし、超高齢社会を迎えた日本社会における課題について主体的に考え、他の専門分野と協働する視点を育むための教育内容や指導方法の開発を行う。</p>
第 1 年次	<p>【研究の重点項目】 介護を必要とする様々な利用者に対し、基本的かつより専門性の高い介護を提供できる能力を育成するための教育内容・指導方法の開発</p> <p>介護を必要とする様々な利用者の尊厳を支えることができる人材を育成するために、大学や専門機関と連携し、介護福祉士の専門性を高める系統的な教育内容や指導方法の研究を行う。</p> <p>(1) 普通教室等で ICT を活用した介護技術・知識の向上をめざすとともに、効果的な指導方法を研究する。</p> <p>(2) 認知症高齢者に対する尊敬と共感を持ったコミュニケーション技術について指導方法を研究する。</p> <p>(3) 福祉用具を活用した利用者の自立支援に向けた介護技術について指導方法を研究する。</p>				
第 2 年次	<p>【研究の重点項目】 介護福祉士に関する知識や技術を活かした課題対応能力を育むアクティブ・ラーニング型授業の研究ならびに、他の専門分野と協働するための教育内容や指導方法の開発</p> <p>生徒が学習した介護福祉士の専門性を活かし、超高齢社会を迎えた日本社会における課題について主体的に考え、他の専門分野と協働する視点を育むための教育内容や指導方法の開発を行う。</p>				

	<p>(1) 大学と協力のもと、福祉教材の作成に向け生徒の主体性を引き出す教育内容や指導方法について研究する。</p> <p>(2) 企業と協力のもと、介護予防体操DVDの作成に向け生徒の主体性を引き出す教育内容や指導方法について研究する。</p>
第3年次	<p>【研究の重点項目】 介護福祉士の専門的な立場から地域福祉問題に主体的に取り組み、新たな価値を創造するための教育内容や指導方法を開発</p> <p>他の専門分野と協働して作成した地域福祉問題に関するプログラムについて、地域住民に向けた実践活動を行い、新たな価値を創造する視点を育むための教育内容や指導方法を開発する。</p> <p>(1) 完成した福祉教材を活用し、高校生が先生となって取り組む小・中学生対象の「福祉教室」を開催するための教育内容や指導方法を研究する。</p> <p>(2) 完成した介護予防体操DVDを活用し、高齢者の介護予防を促進するレクリエーションについて高校生が主体的に企画・運営するための教育内容や指導方法を研究する。</p>

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）

特例による教育課程の変更は行っていない。

○平成27年度の教育課程の内容（平成27年度教育課程表を含めること）

別添資料1 平成27年度教育課程実施計画表 参照

○具体的な研究事項・活動内容

I 2025（H37）年の日本社会を支える介護福祉士としての専門性の強化

介護・福祉ニーズの多様化・高度化に伴って求められている「介護を必要とする幅広い利用者に対する基本的な介護を提供できる能力」を養い、更に最先端の介護知識や技術を兼ね備えた専門性の高い人材を育成するための教育内容や指導方法について次の6分野から研究を行った。

(1) ICTを活用した介護技術・知識の向上

- ① 基本的かつより専門性の高い介護を提供できる能力を育成するためにICTを活用した効果的な指導方法の研究を行った。

日程	対象者	主な活動内容
5月～2月	1年生(40名)	介護実習発表会
	2年生(38名)	情報端末機器(録画・再生機能)を活用した介護技術
	3年生(35名)	ウェアラブルカメラから利用者視線を映し出すことによる共感的な介護技術
		情報端末機器(録画・再生機能)を活用した医療的ケア

- ② ICTを効果的に活用するための教員対象のICT講習会等を実施した。

日程	対象者	主な活動内容
1月22日(金)	福祉科教員	ICTを活用した授業に向けて指導計画に対する助言 ソフトウェア等の操作方法や活用方法に対する助言
1月27日(水)	1～3年生	ICT(プレゼンテーションソフト)を活用した協働学習 ●福祉教材作成に向けて(計38名) ●介護ロボットの新たな活用方法(計38名)

(2) 認知症ケアのためのコミュニケーション技術

講習会の実施など認知症高齢者に対して尊敬と共感を持って関わることができるバリデーション技法の習得に努めた。また、高齢者施設で実践学習を行った。バリデーション技法を活用して、認知症高齢者の一人ひとりの心の奥にある閉ざされた感情やニーズについて考えることができた。

日 程	対象者	主な活動内容
4月25日(土)	3年生(7名)	バリデーションセミナー2015参加
6月30日(火)	2年生(38名)	特別授業 「バリデーションへの誘い」
7月9日(木)	3年生(36名)	講師名 関西福祉科学大学 教授 都村 尚子先生
7月20日(月)~27日(月)	2年生(38名)	介護実習にてバリデーション法の実践
7月13日(月)~31日(金)	3年生(36名)	(特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・グループホーム)
8月25日(火)	2年生(38名)	特別授業 「介護実習にてバリデーション法を活用して」
8月28日(金)	3年生(36名)	講師名 関西福祉科学大学 教授 都村 尚子先生

(3) 医療的ケアに関する知識・技術の向上

介護福祉士の業務として喀痰吸引等の医療的ケアを行うことが可能となった。本学科も平成25年度入学生(3年生)から医療的ケアに関する内容を指導しており、安全かつ適切な医療的ケアの指導方法について研究している。

生徒たちにとって、知識や経験が不足しがちな医療分野について充実を図るために、日本赤十字社の救急法救急員講座を開催し、資格取得をめざした。

日 程	対象者	主な活動内容
8月20日(木)	3年生(36名)	赤十字救急法基礎講習会 合格率100%(36名合格)
8月21日(金)・24日(月)	3年生(36名)	赤十字救急員養成講習会 合格率91.7%(33名合格)

(4) 社会起業家等による特別授業

超高齢社会を迎えた今、地域住民同士が支えあうことができる地域コミュニティの構築は重要である。介護・福祉・医療従事者だけで超高齢社会を支えることは困難な現状であり、多くの地域住民が福祉についての「理解者」「応援者」として、自ら生活する町を創造していく必要がある。そこで、本学科の生徒を介護福祉士の専門性を活かした地域コミュニティ構築の担い手として育成するために、社会福祉分野や地域福祉で活躍されている方を講師に招き講演会を実施するなど、教室では学ぶことが出来ない現場の取り組みを学び、社会的価値観(役割・使命・福祉観)を育んだ。

日 程	対象者	主な活動内容
7月9日(木)	3年生(36名)	特別授業 ~先輩介護福祉士から介護実習の極意を学ぶ~ 講師名 介護老人保健施設よどの里 西村 由香様
11月13日(金)	2年生(38名)	チョーク製造を手掛ける日本理化学工業見学会 ~70%以上が障がい者の社員 幸せを提供できる企業~ 講師名 会長 大山 康弘様
11月9日(月)	1年生(20名)	特別授業 聴覚障がいのある方の生活について
11月30日(月)	1年生(20名)	講師名 大阪聴力障害者協会 沼 順子様
2月4日(木)	2年生(38名)	特別授業 西淀川区役所と淀商業高校の生徒によるワールドカフェ 「くじら食堂~おかずは福祉で~」 福祉現場で働く福祉課職員(10名)と本学科生徒との交流
2月10日(水)	2年生(20名)	特別授業 視覚障がいのある方の生活について
2月17日(水)	2年生(18名)	講師名 大阪市視覚障害者福祉協会 山本 美恵子様

(5) 福祉用具を活用した利用者の自立支援

将来、介護福祉士として働く本学科生が腰痛を理由に離職することのないように、福祉用具を活用した「北欧における持ち上げない介護技術」について特別授業を実施した。また、バリアフリー展を見学することにより、高齢者・障がい者の自立ある生活を支援するための最新の福祉用具を学んだ。

日 程	対象者	主な活動内容
4月17日(金)	2年生(38名) 3年生(36名)	バリアフリー展 2015 見学学習会 ※研究テーマ(グループ)ごとにレポート作成
11月9日(月)	3年生(18名) 3年生(16名)	特別授業 「北欧における持ち上げない介護技術Ⅰ」 ① 腰を痛めないための姿勢とは ② スライディングシートを活用した平行移動 講師名 京都女子大学 助教 富田川 智志先生
11月16日(月)	3年生(18名) 3年生(16名)	特別授業 「北欧における持ち上げない介護技術Ⅱ」 ① スライディングボードを活用した移乗介護 ② 介助ベルトを活用した端座位から立位への介護技術 講師名 京都女子大学 助教 富田川 智志先生

(6) 国際的な視野による日本の介護について検証

EPA(経済連携協定)で来日し、(財)海外産業人材育成協会(HIDA)で6ヶ月間の研修中であるインドネシア介護福祉士候補生と介護技術交流会を実施し、国際的な視点から日本の介護について考えることができた。生徒たちは、インドネシア介護福祉士候補生に対して、日本語で介護の専門的な知識や技術を伝えることの難しさを実感し、「介護サービスを提供するうえで一番大切なこと」について再認識することができた。

また、関東福祉研修旅行(2月8日~10日)を企画し、福祉先進国であるスウェーデン大使館やJICA(国際協力機構)で研修会を実施する予定である。

日 程	対象者	主な活動内容
11月2日(月) 【実地調査】	2年生(22名) 候補生(20名)	テーマ「国際的な視点から日本の介護について考える」 ~インドネシア介護福祉士候補生を迎えて~
11月4日(水) 【公開授業】	2年生(16名) 候補生(12名)	【公開授業の部】 ① 科 目 「生活支援技術」 ② 題材名 自立に向けた生活支援技術 ~浴衣の交換の介護を通じて、利用者の立場から支援の方法を考える~ 【研究授業の部】 ① 本日の公開授業について・質疑応答 ② 指導講評 同志社大学 社会学部 社会福祉学科 教授 空閑 浩人先生
2月9日(火)	3年生(35名)	関東福祉研修旅行 ① スウェーデン大使館訪問 講演会「スウェーデンの文化を通じて社会保障制度を学ぶ」 ② JICA(国際協力機構) プログラム「青年海外協力隊による国際的なボランティア活動から世界が直面する課題について考える」

II 地域社会と繋がりをもつ福祉実践教育～地域福祉の課題に向けた専門分野との共創～

超高齢社会に伴って迫り来る地域福祉の課題解決に向けて、本学科で学習する介護福祉に関する専門的知識や技術を活かし、他分野の専門性と融合することでバリュークリエイターとして新たな価値を生み出す手法について、次の3分野から研究を行った。

3分野の研究に向けた学習については、1～3年生が自らの興味関心に応じて選択制とした。各分野について1～3年生が協力して、介護総合演習の時間（年3回）で取り組み、1・2年生は、3年生から介護福祉に関する専門的知識や技術を教えてもらうことにより、学習における刺激を受け、また3年生は後輩に教えることから学びを深めることができた。

(1) 小中学生に福祉マインドの育成～大学・社協との共創～

日程	対象者	主な活動内容
8月10日(月) 8月11日(火)	1～3年生 (計15名) ----- 小学生(10名)	学習会 小学生対象「やってみよう福祉体験」開催 テーマ 「私たちが住んでいる町の防災について考えよう」 協力 大阪市消防局、あおぞら財団
10月21日(水)	1～3年生 (計38名)	小・中学生に伝えたい福祉とは① ～小学生対象の「やってみよう福祉体験」を振り返る～
11月18日(水)	1～3年生 (計38名)	小・中学生に伝えたい福祉とは② ～グループ学習を通じて、福祉のテーマを考える～
1月27日(水)	1～3年生 (計38名)	小・中学生に伝えたい福祉とは③ ～大学生との協働学習、伝えたい福祉について～

(2) 健康寿命延伸に向けて介護予防体操の実施～企業・社協・福祉施設との共創～

日程	対象者	主な活動内容
6月10日(水)～12日(金) 7月20日(月)～27日(月)	3年生(35名) 2年生(38名)	介護実習にて介護予防体操の実践(デイサービス・デイケア) 介護実習にて介護予防体操の実践(グループホーム)
7月13日(月) 12月9日(水)	2年生(38名) 1年生(40名)	特別授業「音楽を活用した介護予防体操」 講師名 株式会社第一興商大阪支店 谷 英昭様
10月21日(水)	1～3年生 (計38名)	高齢者の方に応じた介護予防体操を考えよう① ～昨年度作成した介護予防体操DVDを視聴する～
11月18日(水)	1～3年生 (計38名)	高齢者の方に応じた介護予防体操を考えよう② ～歌に合わせて、身体の動きを考えよう～
1月27日(水)	1～3年生 (計38名)	高齢者の方に応じた介護予防体操を考えよう③ ～アンケート調査から介護予防体操の改善点を考えよう～

(3) 介護ロボットを活用した自立支援を考える～企業・福祉施設との共創～

日程	対象者	主な活動内容
10月21日(木)	1～3年生 (計37名)	コミュニケーションパートナーロボットの可能性について① ～介護現場でのロボットの活用方法を考える～
11月18日(水)	1～3年生 (計37名)	特別授業「コミュニケーションパートナーロボットかぼちゃんとは」 講師名 ピップ&ウィズ株式会社 岡崎 雅嗣様
12月14日(月) ～22日(火)	1年生(40名)	介護実習にてコミュニケーションパートナーロボットの検証 (デイサービス・デイケアにてアンケート調査)
1月27日(水)	1～3年生 (計37名)	コミュニケーションパートナーロボットの可能性について② ～介護実習での検証をもとに、新たな活用方法を考える～

5 研究の成果と課題

○実施による効果とその評価

(1) コンテスト受賞及び資格取得

- ① 高校生介護技術コンテスト近畿大会（8月25日開催）優秀賞受賞（2年生3名参加）
- ② 赤十字救急法基礎講習会（8月20日）合格率100%（3年生36名合格）
赤十字救急員養成講習会（8月21・24日）合格率91.7%（3年生33名合格）
- ③ 介護職員初任者研修（3月15日修了式）取得予定率100%（2年生38名取得予定）
- ④ 介護福祉士国家試験（1月24日）（3年生受験者34名）※合格発表3月28日

(2) アンケート調査による分析

【表1 意識調査（1月） 福祉ボランティア科1～3年生 計112名 うち（ ）は3年生(34名)のデータ】

質問項目	1	2	3	4
① 授業や実習等に積極的に取り組むことができ、学ぶ意欲が高まった。	32.1% (55.9%)	59.0% (41.2%)	7.1% (2.9%)	1.8% (0.0%)
② これからも、自分の介護福祉の専門性を活かして、ボランティア活動に参加したいと思う。	44.6% (64.7%)	43.8% (32.4%)	11.6% (2.9%)	0.0% (0.0%)
③ 課題に対して解決方法を自分で考え、行動する力が高まった。	15.2% (32.4%)	68.7% (64.7%)	16.1% (2.9%)	0.0% (0.0%)
④ 将来、自分の介護福祉の専門性を活かして困っている方（地域住民）の相談にのり、人の役に立ちたいと思う。	50.9% (64.7%)	46.4% (35.3%)	2.7% (0.0%)	0.0% (0.0%)
⑤ 超高齢社会に向けて、地域住民・隣人と協力して地域の課題に取り組みたいと思う。	34.8% (53.0%)	53.6% (44.1%)	11.6% (2.9%)	0.0% (0.0%)
⑥ 学びを通じて、新たな知識・技術を習得することができ、自分のスキルアップにつながった。	52.6% (76.5%)	43.8% (23.5%)	3.6% (0.0%)	0.0% (0.0%)
⑦ 国家試験である介護福祉士の合格に向けて意欲的に勉強している。	52.7% (47.1%)	40.2% (44.1%)	7.1% (8.8%)	0.0% (0.0%)
⑧ 介護福祉の勉強を通じて自分の将来の職業に対する意識が高まった。	52.7% (64.8%)	33.9% (29.4%)	9.8% (2.9%)	3.6% (2.9%)
⑨ 介護実習を通じて、職員の方や利用者の方から学ぶことがあった。	83.9% (91.2%)	15.2% (8.8%)	0.9% (0.0%)	0.0% (0.0%)
⑩ 介護実習を通じて、介護福祉の仕事についてその魅力を理解する（気づく）ことができた。	49.1% (67.7%)	45.5% (29.4%)	5.4% (2.9%)	0.0% (0.0%)

※4段階評価 1 思う 2 どちらかと言えば思う 3 どちらかと言えば思わない 4 思わない

(3) 評価

1月に実施した意識調査のアンケートから学科全生徒と学科3年生のデータを比べると、質問項目⑦を除くすべての項目において3年生の「思う」の値が高い結果となった。質問項目③「課題に対して解決方法を自分で考え、行動する力が高まった」について、「思う」の値が低い値（学科15.5%、学科3年生32.4%）なので、課題解決能力を育成するための授業開発を研究する必要がある。

○実施上の問題点と今後の課題

SPH事業の取り組みが多彩であり、計画を実現させるための外部講師や他の機関との調整ばかりに追われていたため、1年目の反省点を踏まえて各分野について内容を精選し、より深化充実を図りたい。更に、SPH事業終了後も連携大学の特別授業で学科生徒に教えて頂いた専門的な知識や技術を教授できるように、教員のスキルアップが重要な課題である。また、生徒の学習過程や成

長過程を、生徒作品や映像などを通じて記録として集積できるように環境整備が必要である。

【別添資料1】

平成27年度教育課程実施計画表 大阪市立淀商業高等学校 福祉ボランティア科

教科	科目	標準 単位数	入学年度 学科 学年 学期	平成27年度				教科 計 ※	平成26年度				教科 計 ※	平成25年度				教科 計 ※		
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ			
				1	1	1			1	1	1			1	1	1				
国語	国語総合	4		3				3~7	3				3~7	3				3~7		
	基礎国語				2△					2△						2△				
	国語演習					2○					2○						2○			
	国語研究					2○					2○						2○			
地理	世界史 A	2				2		4			2		4			2		4		
	地理 A	2	2							2						2				
公民	現代社会	2			2			2		2			2		2			2		
数学	数学 I	3	3					3~7	3				3~7	3				3~7		
	数学 A	2		2△						2△						2△				
	数学演習				2●						2●						2●			
理科	科学と人間生活	2			2			4~6		2			4~6		2			4~6		
	生物基礎	2	2							2						2				
	生物演習				2※						2※						2※			
保健	体育 7~8	3	2	2				7	3	2	2		7	3	2	2		7		
	保健	2																		
芸術	音楽 I	2		2□				2		2□			2		2□			2		
	書道 I	2		2□							2□						2□			
外国語	コミュニケーション英語 I	3	2	2				4~8	2	2			4~8	2	2			4~8		
	英数選択英語研究				2●						2●						2●			
	英理選択英語研究				2※						2※						2※			
	日常英語				2※						2※						2※			
家庭	家庭基礎	2	2				2	2				2	2				2			
情報	社会と情報	2																		
小計				17	12	10		39	17	12	10		39	17	12	10		39		
福祉	社会福祉基礎	2~6	2		2		51	2		2		51	2		2		51			
	介護福祉基礎	2~6	2	3					2	3					2	3				
	コミュニケーション技術	2~4	1	1					1	1					1	1				
	生活支援技術	4~12	2	4	4				2	4	4				2	4		4		
	介護過程	2~6		2	2					2	2					2		2		
	介護総合演習	2~6	1	1	1				1	1	1				1	1		1		
	介護実習	4~16	3	5	5				3	5	5				3	5		5		
	こころとからだの理解	2~12	2	2	4				2	2	4				2	2		4		
福祉情報活用	2~4			2					2					2						
小計				13	18	20		51	13	18	20		51	13	18	20		51		
総合的な学習の時間				0	0	0		0	0	0		0	0	0	0	0		0		
ホームルーム				1	1	1		3	1	1	1		3	1	1	1		3		
総計				31	31	31		93	31	31	31		93	31	31	31		93		
備考				△印科目から1科目選択 ○印科目から1科目、●印科目から1科目、※印科目から1科目それぞれ選択 □教科内から1科目選択 各学年の「介護実習」については、1単位分を夏季休業中に集中開講する。 「社会と情報」は「福祉情報活用」で、「保健」は「こころとからだの理解」で、「総合的な学習の時間」は「介護総合演習」で代替する。																